

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0061  
鳥取市立川町六丁目176番地  
東教発 R3. 1. 6 No.165  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 「B-PLAN」を活用した全教員による授業づくり

鳥取市立倉田小学校



倉田小学校は、研究主題を「学びの自立と協働をめざして～進んで課題に取り組み、楽しく学び合う子どもの育成～」とし、昨年度から算数科を研究教科として授業づくりに取り組んでいます。本年度、小学校活用問題集「B-PLAN」を使って、活用力を伸ばすことをめざした授業づくりを全教員で行っています。

### 小学校活用問題集「B-PLAN」とは

全国学力・学習状況調査問題を授業改善に活用することを目的に県教育委員会が作成した問題集。各単元のねらいに関係が深い調査問題を、4・5年の教科書の単元順に配列したもの。

### 3つの会で指導力向上・授業改善

#### 「校内授業研究会」

- ・4・5年が年間2単元ずつ、4回実施。

#### 「授業づくり研修会」

- ・校内授業研究会に向け、全教員が4年研究部と5年研究部に分かれ、B-PLANを解くために必要な力をつけたい力として定め、教材研究を行う。

#### 「授業を見合う会」

- ・4・5年担任以外が、年に2回以上授業を公開する。
- ・校内授業研究会、授業づくり研修会で共有した児童につけたい力や授業の改善点を各学年に合わせて指導する。

### B-PLANを活用した取組の流れ

- ・4月 B-PLAN活用についての研修
- ・5～6月 授業づくり研修会①(4回)
- ・7月 校内授業研究会① 4・5年
- ・9～11月 授業づくり研修会②(6回)
- ・12月 校内授業研究会② 4・5年
- ※ 授業を見合う会は随時実施

#### 校内授業研究会

学びの自立と協働の姿



#### 授業づくり研修会



#### 【教員の姿】

- ・全教員で取り組めているので、楽しく授業づくりができた。
- ・つけたい力を全学年で意識した授業づくりが進んだ。
- ・児童の意欲や関心を喚起させる問題やめあての提示を工夫することができた。

#### 【児童の姿】

- ・興味関心が高まり、意欲的に授業に取り組む姿が増えた。
- ・粘り強く考え、積極的に考えをかいたり、説明したりする姿が増えた。
- ・アンケートでは、全校で「算数が好き」の割合が増えた。

小学校では新学習指導要領が全面実施となり、教科書も新しくなりました。新学習指導要領で求められている学力を調査する全国学力・学習状況調査の問題を生かした授業づくりをすることは、教師の指導力向上につながり、児童に求められている学力を身につけさせるのに有効です。B-PLANを活用し、全教員で研究を進めることで、授業改善のポイントを共有し、各学年の授業づくりに生かすことができます。

## 新しい学校の在り方を考える

～「家庭学習の質向上推進事業」を通して～

局長 長谷川 隆

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて東部教育局では、平成30年度より東部地区の5中学校区で「家庭学習の質向上推進事業」に取り組んでいただいておりますが、先月その成果発表及び研修会を開催しました。年末のお忙しい中、多くの方にご参加いただきありがとうございました。

この事業に取り組んでいただいた3年間は、教育界においても激動の時期だったと思います。新学習指導要領の実施や働き方改革、そしてなんとといっても新型コロナウイルスの感染拡大は、学校教育にも大きな影響を与えました。ただこの事業に取り組んでいただいた各学校も、それに合わせて新しい学校の在り方を踏まえた、そしてより学校の特色を生かした取組へと深化されていったと感じています。

そういった今回の取組を通して、次の二つのことを考えました。一つが「学びに向かう力」の育成です。新学習指導要領で示されている「学びに向かう力」を育成していくためにも、家庭学習を意識した「授業改善」がやはり大切です。もう一つが「ICTの活用」です。GIGAスクール構想により子どもたちが一人一台ずつ情報端末を持つこととなります。もちろん学校や家庭での利用環境などまだまだ課題はありますが、家庭学習も含め、さまざまな場面での活用をぜひお願いします。

この3年間の各校区の取組には、このコロナ禍の中での新しい学校の在り方を含め、多くのご示唆をいただきました。感謝を申し上げますとともに、その成果を今後「学校教育支援サイト」等で情報提供していく予定です。多くの学校でもぜひ参考にさせていただきたいと思っております。



## 「とっとり学力・学習状況調査」について説明します！

今年度、鳥取市、米子市の小学校・義務教育学校（前期課程）において、「とっとり学力・学習状況調査」を先行実施し、10月末に各学校に調査結果が返却されました。各学校では、その結果を分析し授業改善や児童一人一人に応じた指導・支援を進めたり、個人票を個人懇談等の機会を利用して保護者に返却したりしています。来年度から新たに参加する学校が増える中で聞こえてくる「とっとり学調ってどんな調査なの？」という声にお答えします。

|       | とっとり学力・学習状況調査   | 全国学力・学習状況調査   |
|-------|---|---|
| ねらい   | 個の学力の伸びに着目し、学習を通して互いに影響し合う「伸びる」集団をつくる。  | 問題と誤答例に着目し、授業改善の手立てを工夫して授業の質を向上させる。   |
| 実施時期  | 4月（全国学調の実施前後1～2週間）<br>（来年度は5月11日～20日の期間に実施予定）   | 原則として、火～木曜日のうち、4月18日に最も近い日（来年度は5月27日実施予定）   |
| 対象学年  | 令和2年度 小学4年生～6年生<br>令和3年度 小学4年生～中学1年生<br>令和4年度以降 小学4年生～中学2年生<br>（義務教育学校は4年生～8年生）   | 小学6年生、中学3年生<br>（義務教育学校は6年生と9年生）   |
| 調査内容  | 学力調査（国語、算数・数学）、質問紙調査（学習方略と非認知能力の状況）   | 学力調査（国語、算数・数学、3年に1度理科または英語）、質問紙調査（学習状況等）  |
| 分析と活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査において、一人一人の学力レベルを経年で把握できる。（小学校から中学校にも引き継がれる。）</li> <li>質問紙調査において、個人、学級・学年集団の優れている面、苦手な面が把握できる。強みを生かしたり、課題を改善したりすることにより、学習に向かうよりよい集団を育てることに役立ter。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>前年までの学習内容の理解・定着が分かる。</li> <li>自校分析により、いち早く学力及び学習状況の実態を把握し授業改善に役立ter。</li> <li>学習指導要領に示された身につけさせる資質・能力を把握し、授業実践に生かす。</li> </ul> |



鳥取県は、「学びに向かう『伸びる集団作り』と『わかった』『できた』を実感できる授業づくり」の2本の柱で、児童生徒の学力向上を目指します。



調査の特長を理解し、結果を有効に活用することが、指導者の授業改善や学級経営等の力量を高めます。そして、児童生徒の学力の向上とともに学びに向かう姿勢や集団としての成長を促進します。

### 教育 フロントライン

## 小学校高学年における教科担任制について

このコーナーでは、国や県の施策等の動向を踏まえて、注目したい情報をお伝えしていきます。今回は、令和2年10月7日に中教審の初等中等教育分科会が示した「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（中間まとめ）」から、小学校高学年における教科担任制について紹介します。関連サイトのQRコードとURLをつけていますので、情報源にもアクセスしてみてください。

### ポイント

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程を支える指導体制の構築が必要である。
- (2) 教科指導の専門性を持った教師によるきめ細かな指導の充実を図ることが重要である。
- (3) 令和4年度を目途に本格的に導入する必要がある。

○GIGAスクール構想による「1人1台端末」環境下でのICTの効果的な活用と相まって、個々の児童生徒の学習状況を把握し、教科指導の専門性を持った教師によるきめ細かな指導を可能とする教科担任制の導入により、授業の質の向上を図り、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図ることが重要である。

○小学校における教科担任制の導入は、教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校教育活動の充実や教師の負担軽減に資するものである。

○専科指導の対象とすべき教科については、系統的な学びの重要性、教科指導の専門性といった観点から検討する必要があるが、（中略）例えば、外国語・理科・算数を対象とすることが考えられる。

～（中間まとめ）から一部抜粋、下線は加筆～

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1382996\\_00006.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1382996_00006.htm)



遊びを通した育ちと学びを未来へつなぐ

幼保小の円滑な接続をめざして

県教育委員会では、幼児教育と小学校教育のさらなる連携推進、円滑な接続に向けて幼保小連携事業を実施しています。東部地区では、この事業を通して、幼保小の相互理解と接続カリキュラムの編成などの取組を推進する市町を支援し、その成果を情報発信していきます。本年度の事業実施校・園である鳥取市立面影小学校、白ゆり保育園、さくら幼稚園・さくら保育園の実践を紹介します。

☆事業の柱として、年長児と5年生の交流、接続カリキュラムの編成に取り組んでいます。

年長児と5年生の交流

1回目

読み聞かせ



園児が喜んでくれてよかった。

5年生は、6年生への自覚を高めるとともに、自己肯定感を育むことをねらっています。年長児は小学校への期待と安心感を高めます。

2回目

学校探検



知りたかった小学校のことが分かったよ。

昆虫太極拳



園でやる昆虫太極拳。自信もってできるよ。

接続カリキュラム編成委員会

メンバーは、1・2年学年主任、教頭、5歳児担任、副園長です。お互いの子どもの姿について話し合い、相互理解したうえで、接続カリキュラムの編成に取り組んでいます。

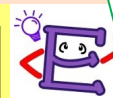
まずは、メンバーを決めるといった体制づくりが大切です。

1回目の交流後に園と小学校で、交流で見られた姿を共有し次回の交流について話し合いました。そして、2回目は学校という場で主体的に自己を発揮していけるよう、年長児の思いを生かした活動内容の工夫が行われました。

3回目



3回の交流を重ねることで、年長児と5年生の関係も深まりました。



詳しくは…

接続カリキュラムを編成するためには、お互いの子どもを理解したうえで、めざす姿を共有することが大切です。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、保育・授業参観、交流会などを通して見られる幼児・児童の姿を理解すること、お互いの教育・保育について知ることから始めましょう。

【研修会のご案内】

「東部地区幼保小連携・接続推進研修会」

日時：令和3年3月3日（水）

会場：国府町コミュニティセンター

講師：岐阜聖徳学園大学 西川正晃教授

※幼保小連携事業の実施校・園による実践発表、講師の先生による講義・演習です。

社会教育コーナー



多様な価値観に触れよう！

鳥取市立気高中学校で、中学生トークプログラム「CHA<sup>3</sup>プログラム」が実施されました。中学生が、地域の大人や大学生と話をすることによって多様な価値観に触れ、自己を見つめるとともに、これからの生き方や働き方を考えるというプログラムです。本年度は、コロナ禍の中で感染症対策を行いながらの実施でしたが、生徒にとって有意義な時間となりました。※CHA<sup>3</sup>とは「Chance・Change・Challenge」の意味が含まれています。

気高中CHA<sup>3</sup>プログラム



「地域の好きなところは？」「働くってどういうこと？」「どんな大人になりたい？」など6つのテーマについてグループで意見交換を行い、様々な立場の人から多様な意見を聞きました。プログラム実施後には、自己肯定感、将来への希望、地域への関心などに対して前向きに捉えられるような効果がありました。



「私には良いところがあると思う」

事前84.1%→事後92.0% ↑

「私は自分の将来に希望を持てる」

事前74.6%→事後93.7% ↑

「大人になるのが楽しみだ。

または、働くことが楽しみだ」

事前76.2%→事後90.5% ↑

「地域をよりよくするために何をすべきか考えたいと思う」

事前85.7%→事後90.4% ↑

生徒の感想

- ・様々な人の意見を聞いて、考えを深めることもできたし、新しい考え方に会えることができたので、楽しかったです。地域の人の温かさなども再発見できたので良かったです。
- ・いろんな人の意見や体験談を聞くことができ、将来どのようなことをしたいか、どのような大人になりたいかなどを深く考えることができたので良かったです。

大学生の感想

- ・自分の意見をしっかりもっている子たちばかりで、とても感動しました。地元愛が伝わってくるのもとても良いなと思いました。自分の中学生時代を振り返れました！とても楽しかったです。

地域の感想

- ・大学生や中学生の素直な思いを聴くことができ、そのしっかりした考え方に感動しました。これからの日本、この子どもたちがしっかりと築いていってくれるのではないかと思います。

子どもたちにとって人との出会いや多様な意見に触れることは、将来に向けて大きな刺激となります。様々な意見を聞きながら、自分と対話し、新たな気づきや考えを生み出すことで子どもたちは成長し前に進んでいきます。コロナ禍の中、人との交流が制限されますが、教室の中だけでは学べないこのような貴重な体験を大切にしていきたいものです。